

第77回 令和7年9月4日（木）

夏っていつまででしょう。

今年は10月まで「真夏日」がありそうですが、夏の定義はいつからいつまででしょうか。

まずは旧暦。5月は「卯月」と言って「初夏」にあたります。6月は「皐月」で「仲夏」。競馬で皐月賞というレースもありますがみなさんは知らないですね。

7月が「水無月」で何と「晩夏」です。8月の「文月」になるともう「初秋」です。9月が「葉月」で「仲秋」。名月で有名ですね。そして10月は「長月」で「晩秋」。11月の「神無月」はもう「初冬」なのですね。

次によく聞く「二十四節気」。「春分」が3月21日ごろで、5月6日ごろには「立夏」といって夏の入り口です。これは現在も同じですね。GWには暑くなるのが恒例です。6月21日ごろが「夏至」。昼間が一番長くなるころです。一番暑いとされている「大暑」が7月23日ごろ。そして8月8日には「立秋」になります。ここから先は「暑中お見舞い」ではなく「残暑お見舞い」になります。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、9月23日ごろが「秋分」で、だいたいこのころには暑さが収まるはずですが、11月7日ごろは「立冬」ですが、今年はこのあたりでやっと暑さから解放される気配です。

みなさんも社会に出るとお手紙を書くとか、文書でご挨拶する機会も増えます。最近ではWordに機能がついているので便利ですが、8月上旬の時候の挨拶は「立秋の候」「晩夏の候」です。現在の天候とは合わなくなってきましたね。

8月中旬が「残暑の候」、下旬になると「秋暑の候」などを使います。9月上旬は「初秋の候」とか「新涼の候」。9月中旬で「涼風の候」などを使いますが、今年はまだまだ暑そうです。11月上旬でやっと「紅葉の候」になりますが、果たして紅葉するのでしょうか。

季語は俳句に使用したりしますが、夏の季語は「蟬時雨」「夏草」「風薫る」など。いまの夏は薫るどころではありませんが。秋になると「鰯雲」などが季語になります。

「赤潮」とか「雹」も夏の季語なのですね。「アイスコーヒー」や「アイスクリーム」、「夏祭り」も季語に使用します。動物だと「いもり」や「げじげじ」「ブラックバス」などが夏の季語だそうです。植物だと「ジキタリス」「ゼラニウム」「ペゴニア」あたりが有名でしょうか。

季節が二季になり、夏と冬しかなくなってしまうとこのような日本語の文化も廃れてしまうかもしれません。年賀状も暑中見舞いも風前の灯火ですが、日本の伝統文化は残り続けてほしいと思います。